

## 親子間の継承に関するアンケート調査結果

母子保健研究部 宮原 忍・齋藤幸子  
目白大学 内山絢子  
玉川大学 近藤洋子  
人間総合科学大学 星山佳治  
東京都幼・小・中・高・心性教育研究会 竹井 操

### 要約:

少子研究の一環として、EPSI (エリクソン心理社会段階目録検査) を用い、次世代育成力と人格の成熟との関連を明らかにしてきた。今回は、大学生とその父母を対象にアンケート調査を行い、有効回答 111 組について親子間の養育力・価値観の継承について分析した。主な結果は次の通りである。

1) EPSI 得点の相関係数は、学生-父親 0.226 ( $P<0.1$ )、学生-母親 0.176(N.S.)であった。

2) 学生の EPSI との相関は、学生の世代間交流 0.424・家庭環境 0.338・SOC0.737 対人スキル 0.639 ( $P<0.01$ )、父母の育児観 0.239・母の SOC (首尾一貫感覚) 0.231 で有意であった( $P<0.05$ )。

3) 学生の将来持ちたいと希望する子ども数との相関は、学生の世代間交流 0.219・世代継承観 0.365・母親の希望する学生の子ども (孫) の数 0.240 ( $P<0.05$ ) で有意であった。

4) 父母が親から受けた接し方 (子どもの話に傾聴した・子どもを尊重した) について肯定・否定いずれの場合も、子 (学生) への接し方では肯定が多かった。しかし、学生による父母への評価とは必ずしも一致していなかった。

以上、学生の EPSI と父母の養育観との関連などから、養育性の継承が示唆された。しかし、子による親の接し方の評価は、父母の回答に反する場合もあった、学生の EPSI・希望子ども数は世代間交流など家庭外の人と交流との関連もあり、次世代育成力が家庭のみならず社会生活の中で継承されることも示唆された。

見出し語: EPSI, SOC, 次世代育成力, 価値観, 継承

### Studies on the Nurture and Value in the Low Birthrate Society (II)

Shinobu MIYAHARA, Sachiko SAITO, Ayako UCHIYAMA,  
Yoko KONDO, Yoshiharu HOSHIYAMA, Misao TAKEI,

#### Summary:

The decrease of the birthrate in Japanese Society is a one of the most important issue in the early stage of 21st century. To analyze the factors influencing the decrease of the birthrate, EPSI (Erickson's Psychosocial Stage Inventory) was applied to the relationship between the nurturing ability and personal maturity.

In 2003 study, the high correlation of the fostering ability and the personal maturity was demonstrated. In 2004 study, the set data of the young university students and their parents were analyzed.

- 1) The correlation between EPSI scores of the students and these of parents were as follows; Students - Fathers 0.226 ( $p<0.1$ ); Students-Mothers 0.176 (N.S.)
- 2) The students' EPSI had high correlation with the students' association with different generation; home environment; personal relationship skills, parents' opinion on childrearing; mothers' SOC (Sense Of Coherence).
- 3) The expected number of children of students was related with the students association with different generations, the view on generation-succession, the expected number of grandchildren of the parents.
- 4) The parents felt that they reared their children (students) with the good fostering attitude but not all the children (students) were thinking so.
- 5) The correlation of between EPSI of the parents and that of the students was suggested.

Keywords: EPSI, SOC, nurturing ability, generation-succession

## I 研究の目的

本研究では、わが国の少子傾向を”generativity”の問題として調査研究を進めてきた。”generativity”は通常「生殖性」と訳されるが、E.H.エリクソンによる人生発達理論において(表1)、成人期に獲得されるとする課題で、「子孫を生み出すこと、生産性、創造性」を包含する概念である<sup>1)</sup>。我々はこれを次世代育成力の中核概念と考え、これを育む社会環境のあり方を提示することを研究の目的とした。これまでに、EPSI(エリクソン心理社会的段階目録検査)<sup>2)</sup>を人格発達の指標として、次世代育成力が人格の成熟度と関連があることを明らかにした。また、人格形成の背景として家庭内外の人間関係が豊かさ重要であることも分かった<sup>3) 4) 5)</sup>。

以上から、次世代育成力は、人と人との関わりの中で人格の成熟とともに育まれることが明らかである。言い換えれば、人から人への養育力の継承が必要と言えるが、その機序は明らかではない。そこで、本年は、親子間における養育力・価値観の継承の現状を調べ検討する。

表1. エリクソン人生発達段階と心理・社会的危機

VIII 老年期	統合 対 絶望, 嫌悪
VII 成人期	生殖性 対 停滞
VI 前成人期	親密 対 孤立
V 青年期	同一性 対 同一性の混乱
IV 学童期	勤勉性 対 劣等感
III 遊戯期	自主性 対 罪悪感
II 幼児初期	自律性 対 恥, 疑惑
I 乳児期	基本的信頼 対 基本的不信

## II 研究方法

大学生とその親を対象に、アンケート調査を行い、以下の仮説を検討した。

- (1) PSI 得点の高低は親から子に継承される。
- (2) 次世代育成にかかわる結婚・育児・世代継承に関わる価値観は親子間で継承される。

その他、家庭の雰囲気、親の子どもへの接し方、親の対人関係などを分析し、子に備わる次世代育成力との関連を調べる。

### 1. 調査内容

前回調査<sup>3)</sup>と同じく、EPSI と SOC (首尾一貫感覚)<sup>6)</sup>を軸とし、学生用と保護者用2種類の調査票を作成した。主な内容は以下の通りである。なお、EPSI, SOC, 対人スキル<sup>7)</sup>の検査目録は末尾に添付した。

- (1) 学生と保護者(父母)共通の設問

EPSI, SOC, 対人スキル, 世代間交流, 世代継承観, 世話になった人, 育った家庭の雰囲気, 親の接し方,

- (2) 学生のみへの設問

結婚観, 希望子ども数, 親から大切にされた経験

- (3) 保護者(父母)のみへの設問

子どもの結婚について, 対象の学生に持ってもらいたいと思う子ども(孫)の人数, 育児観

### 2. 調査対象と調査時期

大学生男女とその父母を調査対象とし、調査場所は都内および近郊に位置する2大学(心理・社会学系学科)であった。調査時期は2004年12月~2005年1月であった。

### 3. 調査方法と倫理的配慮

学生・父母の調査票3部を1組として学生に配付し、原則として学生はその場で回答し、父母には学生から調査票を手渡し、または郵送してもらった。父母の回答は個々のプライバシーを配慮した方法で、学生を通して回収または直接郵送によって回収した。回答は無記名であったが、家族であることが分かるよう3者の調査票に同じ番号を付したことについて、あらかじめ了解を求めた。

### 4. 回収率と有効回答

学生・父・母の3部で1組の調査票を534組配布し、学生406人、父母347人から回答を得た。有効回答は、学生378人、父親152人、母親259人であった。家族別に整理すると、3者が揃った有効回答は111組であった。男女別の有効回答数は表2の通りである。

表2. 学生・父母別有効回答数

	学生		保護者	
	男子学生	女子学生	父親	母親
男子学生	119人		父親	152人
女子学生		259人	母親	172人
学生合計	378人		保護者合計	324人

### 5. 分析方法

分析対象は、学生と父母3者が揃って有効回答を寄せた111組とし、次の集計を行った。

- (1) 学生と父母共通の設問について、3群間の比較を行い、世代および父母間の違いをみる(表3~12)。
- (2) 3群別にそれぞれ調査票内の項目間の分析を行った。各群のEPSIとその他の項目との関連を調べた。これは、過去の調査と同様の手続きである(表13)。
- (3) 本題である、学生-父-母の関連を検討した。まず、学生のEPSIと父母のEPSI他父母への設問の相関を調べ(表14~15, 図1, 2), そ

の後、その他の項目間のクロス集計分析を行った(図3~5)。

結果の検定方法は、単相関係数の無相関の検定他、連続変数は Kruskal-Wallis の順位和検定、多重比較は Scheffe の方法で行った。それ以外は t 検定および  $\chi^2$  検定または Fisher の直接確率法を使用した。以下有意判定の危険率は、\*は  $p<0.1$ 、\*\*は  $p<0.05$ 、\*\*\*は  $p<0.01$  を表し、 $p<0.05$  以下を有意とした。カテゴリー変数については、主な設問項目の重み付けを以下に示す。

### (1) 世代交流

4件法：ほとんどない1点、あまりない2点、少しある3点、かなりある4点

- |                                                                    |
|--------------------------------------------------------------------|
| 1. 親と同じくらい、上の世代との交流<br>2. 赤ちゃんから中学生位の世代との交流<br>3. 自分と同じまたは、近い世代と交流 |
|--------------------------------------------------------------------|

### (2) 世代継承観 (重複回答：各1点)

- |                                                                                                                                                             |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 私は親や上の世代から伝えられる(物的)財産を大切にしたい<br>2. 私は親や上の世代から伝えられる「知的財産」や「生活の知恵」を大切にしたい<br>6. 私にとって、自分の子どもを生み育てることは大切なことだ<br>7. 自分の子どもに限らず、次世代のために配慮したり世話をしたりすることは大切なことだ |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### (3) 育った家庭

4件法：かなり当てはまる4点、少し当てはまる3点、あまり当てはまらない2点、全く当てはまらない1点

- |                                                                                                                                                                             |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 私の育った家庭は、自由に話しあう、開放的な雰囲気だった。<br>2. 私の両親は、お互いの考えや個性を尊重していた。<br>3. 私の両親は仲のよい夫婦だった。<br>4. 父は、私の話に耳を傾けてくれた。<br>5. 私は、父に尊重されて育った。<br>6. 母は、私の話に耳を傾けてくれた。<br>7. 私は、母に尊重されて育った。 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### (4) 育児観

4件法：かなり当てはまる4点、少し当てはまる3点、あまり当てはまらない2点、全く当てはまらない1点。

\*は逆転項目となっている。

- |                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1* 子どもが幼い頃、私は、子育てに困難を感じる事が多かった<br>2 子育ての負担を軽減するために、私は、積極的に周囲の援助を得られるように努めた<br>3 子どもを育てることは、負担もあるが、楽しみも多かった<br>4 子どもを育てることで、自分も成長できた<br>5 子育てはやりがいのある仕事だった<br>6* わたしは子育てにあまりかかわらなかった。<br>7 子どもの話に耳を傾けてきた<br>8 子どもを尊重して育ててきた<br>9* 夫(妻)は子育てにあまり関わらなかった。 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## III 結果

### 1. 学生・父・母別集計結果と3群間の比較

#### 1) 属性

父の平均年齢は 51.3 歳、母は 49.1 歳、両者の年齢差は 2.2 歳で父が上である (\*\*\*)。両親のきょうだい数は、父母ともに 3.1 人で、学生 2.3 人に比べて多い (\*\*\*)。4 人以上のきょうだいで育った父親は 27.9%、母親は 19.8%であったのに対し、学生は 3.6%にすぎなかった。従って、出生順位も父 2.3、母 2.2 に比べ、学生 1.6 と学生の方が上になっている (\*\*\*) (表 3)。

父母の最終学歴については、父親は、大学 51.4%・高校 36.0%・大学院 5.4%・専門専修学校 3.6%・短大・高専 1.8%・中学 1.8%、母親は、大学 28.8%・短大・高専 27.9%・高校 27.0%・専門専修学校 12.6%・中学 2.7%・大学院 0.9%であった。大学・大学院卒は父親が母親に比べ有意に多かった (\*\*\*)。

父母の職業は、父は常勤勤め人が 75.7%、自営業 10.8%、会社経営 5.4%であった。母親は常勤勤め人が 22.5%、非常勤・パート勤め人が 38.7%、自営業 6.3%、専業主婦 28.8%であった。

#### 2) 結婚と結婚観

学生は全員未婚であった。「いずれ結婚するつもり」は 85.6%、「パートナーなら欲しい」が 5.4%、「結婚しない」は 1.8%であった。

子どもの結婚についての父母の考えは、「いずれ結婚して欲しい」が父 96.4%・母 88.3%で、母に比べ父の割合が高い (\*\*\*)。「パートナーは見つけて欲しい」は父 0%に対し、母は 8.1%であった。「その他」が父 2.7%・母 3.6%、「結婚しなくてよい」は両親とも 0%であった (表 4)。

#### 3) 希望子ども数(学生)と希望孫の数(父母)

学生の希望する子ども数は、1人 7.2%、2人 62.2%、3人 22.5%、4人以上 1.8%であった。欲しくないは 4.5%であった。

父親が対象の学生に持って欲しいと希望する子ども数すなわち孫の人数は、1人 1.8%、2人 64%、3人 28.8%、4人以上 1.8%、欲しくないは 0%であった。母親の希望は、1人 2.7%、2人 58.6%、3人 27.7%、4人以上 2.7%、欲しくないは 0.9%であった。

平均値は学生の希望子ども数が 2.11 人、希望孫の数が父 2.32 人、母 2.35 人で、学生と母親間の値に差が認められた (\*\*\*) (表 5)。

#### 4) 世代継承観

世代継承に関して 10 項目についてマルチアンサーで回答を求めた (表 6)。3 群ともに最も選択率

の高かった項目は、「2. 上の世代からの知的財産を大切にしたい」で全体の選択率は85%、次いで「6. 子どもを生み育てること大切」が全体の77%で、これらは3群間に差はない。「7. 次世代の世話大切」も全体で77%と高いが、父母間で差があり父の選択率が69.7%と母の83.8%に比べ低い(\*\*)。「8. 社会全体が次世代の養育責任持つべき」も全体の70%と選択率が高いが、3群間の差はない。その他差が認められた項目は、「9. 自分のことで精一杯」で学生が父母に比べて高く(\*\*\*)、「5. 親世代の価値観は通用しない」では、父が28.8%と母15.3%に比べて高かった(\*)。

### 5) 対人関係

世代間交流では、自分より上の世代、下の世代、同じくらいの世代との交流について設問し、「かなりある」4点、「少しある」3点、「あまりない」2点、「ほとんどない」1点として、平均値を比較した(表7)。上の世代との交流は、3群間に差はない。下の世代との交流は父母間では母の方が交流が多く、父1.86に対し母2.4(\*\*\*)であった。同世代との交流では、学生に比べ父の交流が少なく、学生3.90に対し父3.65(\*\*\*)で差が認められた。3設問を合計した全体の交流の値では3群間でやや差が認められた(\*)。

「誰から世話を受けて成長してきたと感じているか」の設問では、3群間に差が認められ、祖父、祖母、学校の先生、友人、などで学生が父母に比べ割合が高かった(\*\*\*) (表8)。

「人生について重要なことを教えてくれた実在の人の人数」では、30人以上ははずれ値として無効とした。学生5.37人、父4.20人、母4.17人となっており、3群間で差が認められた(\*\*\*) (表9)。

### 6) 育った家庭・家族について

自分が育った頃の家庭について7項目設問し、それぞれ、「かなり当てはまる」4点、「少し当てはまる」3点、「あまり当てはまらない」2点、「全く当てはまらない」1点として平均値を算出した(表10)。「1. 自由で開放的な家庭」で、学生3.34、父2.95、母2.90となっており、学生の得点が父(\*)および母(\*\*\*)より高かった。

### 7) EPSI, SOC, 対人関係スキル

EPSI 得点は父親が最も高く143.9、次いで母親138.9、学生127.9の順である。学生-父、学生-母の間で差があった(\*\*\*)が、父母間は有意な差ではなかった。SOCも同様であり、学生が51.4と、父61.7・母60.2に比べ得点が低かった(\*\*\*)。なお、EPSIは学生の性別みると、男子 $118.0 \pm 27.4$ 、女子 $132.2 \pm 24.6$ で女子の方が高い(\*\*) (表11)。

以上が、3者の単純集計と3群間の比較である。きょうだい数、育った家庭環境、世代継承観などで、学生-父、学生-母の間で世代間の差が認められる。また、世代継承観や世代交流などで父母間にも差が認められ、性差と言えよう。一方、家庭環境や世代継承観の項目で世代差が認められない項目もある。つまり、親子間で継承されるものとされないものがあることの表われであり、以下で分析を進める。なお、学生においても性差が存在するが、詳細は別稿とする。

## 2. 学生・父・母3群別 EPSI と各設問との相関

相関係数の検定に使用した項目は、年齢、きょうだい人数、出生順位、希望子ども数などであるが、カテゴリーデータである世代交流、世代継承観、家庭環境、育児観は、II-5分析方法で示したように、それぞれの重み付けで数量化した。

3者それぞれの調査票に含まれる項目について、まず、3群別にそれぞれのEPSIと共通の設問項目との関連を見た(表13)。

### 1) 学生への設問

学生のEPSIと相関が有意であった項目は、世代間交流の0.424、家庭環境0.338、SOC0.737、対人スキル0.639であった(\*\*\*)。

### 2) 父親への設問

父親のEPSIと相関が有意であった項目は、希望する孫の人数0.265(\*\*\*)、世代継承観0.203(\*\*)であった。

### 3) 母親への設問

母親のEPSIと相関が有意であった項目は、世代間交流0.347、家庭環境0.309、育児観0.489(\*\*\*)、世代継承観0.204(\*\*) SOC0.735(\*\*\*)、対人スキル0.530(\*\*\*)であった。

EPSIに関連する項目については、3者でそれぞれ異なる特徴を認めるが、全体としては過去の調査結果と同傾向が確認された<sup>3) 4) 5)</sup>。すなわち、EPSIで示す人格の成熟には家庭環境および世代交流など家庭外での人との関係が関連している。また人格の成熟している人は次世代育成に関する意識が高い。

## 3. 学生のEPSIと父母への設問—親子間の相関

EPSIの学生と父親の相関係数は0.226(\*)、学生と母親は0.176(N.S.)であった。学生の性別で見ると、男子学生は、父親との相関0.442(\*\*)、母親と0.416(\*)であった。女子学生(75人)は、父親との相関0.100、母親0.051であった。男子学生と父親間のみ相関が有意であった(表12)。

表 12.EPSI 相関一覧

	学生 EPSI		男子 EPSI		女子 EPSI	
	111 人		36 人		75 人	
父 EPSI	0.226	*	0.442	**	0.100	
母 EPSI	0.179		0.416	*	0.051	

表 14 に学生の EPSI と父母の設問項目との関連を示した。学生の EPSI と父の育児観 0.239(\*\*)、母の育児観 0.231(\*\*)、母の SOC0.236(\*\*)で相関が有意であった。父の EPSI との相関は 0.226 (\*)であった。

このように、学生の EPSI へ直接関連する項目は多くはないが、表 13~14 の結果を併せて、それぞれの背景を見ると全体としては、多くの関連が認められる(図 1)。

#### 4. 希望子ども数と学生・父・母の設問との関連

次世代育成力の一つの指標として、学生の希望する子ども数を変数として、3 者への設問項目との関連をみた(表 15)。

学生の希望する子ども数は、学生への設問項目では世代交流 0.269、世代継承観 0.365、EPSI の下位尺度である信頼性 0.270 で相関が有意であった (\*\*\*)。父親への設問項目では EPSI の下位尺度である生殖性 0.294 (\*\*\*) で、母親への設問項目では、希望する孫の数 0.240(\*\*)で相関が有意であった(図 2)。

#### 5. 子どもへの接し方の継承について

回答者が親元で育った頃、親からどのような接し方をされたかについては、「父(母)は、私の話に耳を傾けてくれた」(以下、傾聴と略す)、「私は、父(母)尊重されて育った」(以下、尊重と略す)について、3 群それぞれに設問した。世代を渡って伝わる養育性について検討する目的である。ここでは、父母の回答は、「(学生にとっての)祖父母から父母への養育力の継承」、学生の回答は「父母から学生への養育力の継承」ととらえることとする。

また、父母には自身の子どもの接し方として、「私は子どもの話に耳を傾けた(傾聴:自己評価)」「私は子どもを尊重して育てた(尊重:自己評価)」について設問したので、これらを学生の回答と対照することで、親の接し方を子どもがどう受け止めているか検討した。

4 件法で尋ねたが「かなり当てはまる」と「少し当てはまる」を肯定、「あまり当てはまらない」と「全く当てはまらない」を否定として集計した結果、父の傾聴についてのみ、有意な差がみられた(\*\*)(表 16-1)。すなわち、傾聴について、祖父-父-学生

の関連を見ると、父が親(学生の祖父)から傾聴的態度で接してもらえなかったと感じている場合(否定)、自分の子へ傾聴しない割合(否定)は 26.5%であり、傾聴してもらったと感じている(肯定)場合に自分の子へ傾聴しない割合(否定)8.3%に比べて高かった(\*\*)。否定-否定という、いわゆる負の連鎖である。父の傾聴に関しては、全体では「肯定-肯定」の伝承が 62.3%に対し、「否定-否定」が 8.5%になる。

これに対し、母の傾聴、父の尊重、母の尊重に関しては有意な差がなく、「肯定-肯定」の伝承は全体でそれぞれ、71.2%、73.6%、73.6%で、「否定-否定」は 1.9%、1.9%、2.8%にすぎない。

「否定-肯定」の伝承の割合に目を転じると、父の傾聴 23.6%、母の傾聴 23.1%、父の尊重 19.8%、母の尊重 16.0%であり、父母が上の世代から受けたネガティブな養育態度は、子世代に受け継がないようにする傾向が認められる。

次に、父母の自己評価と学生からみた親の接し方の関連を見ると、傾聴では、父母の自己評価(私は子どもの話に耳を傾けてきた)と学生の評価(母または父は、私の話に耳を傾けてくれた)で「肯定-肯定」と一致した割合は母 86.2%対し、父は 64.5%と低い。尊重についても、同様に父 67.0%、母 80.0%と父が低い。

父母の肯定的自己評価を学生が否定する「肯定-否定」の割合は、父の傾聴 20.9%、母の傾聴 8.3%、父の尊重 25.7%、母の尊重 10.0%となっている。

全体でみると、祖父母世代のネガティブな養育態度を、父母世代は受け継ごうとはせず、学生世代にポジティブな態度で接しようとする傾向があるが、学生世代は必ずしもこの通りの評価はしていないという結果と言えよう(表 16・17、図 3・4・5)。

## IV 考 察

我が国の出生数は、少子高齢化が懸念される中、依然として減少を続け、歯止めがかかる様子を見せない。最近の厚生労働省の発表によれば、2004 年の合計特殊出生率は 1.29 であり、かろうじて前年と同値であった。

内閣府は、2004 年 12 月、少子化社会白書を発表した<sup>8)</sup>。その中で、少子化の原因として、1.晩婚化・未婚化の進展、2.夫婦の出生力の低下を挙げ、その背景として、1.仕事と子育てを両立できる環境整備の遅れや高学歴化、2.結婚・出産に対する価値観の変化、3.子育てに対する負担感の増大、4.経済的不安定の増大等を挙げた。しかし、これらを前提にして立案された少子化対策が、現在のところ十分に効果を上げているように見えない。

本来、リプロダクション reproduction とは、「生殖」というよりは、語源的には「再生産」であり、

現世代が次世代に置き換えられることである。よって出生数の問題はその一部に過ぎず、子育て、教育を含めた世代継承の問題というべきであろう。現代は世代継承の面からは、数的にも、質的にも衰えているのではないか。われわれは、問題の深化のため、白書のいう「結婚・出産に関する価値観」に止まらず、価値観一般、ないし人間のありかたの問題として捉えることを試みた。

E.H.エリクソンは、人間の発達を、漸成図式にまとめた。彼は成人期の徳を表わすのに、generativity という言葉を用いた<sup>1)</sup>。これは彼の造語であり、「生殖」と訳されるが、実は子どもに限らず、何物かを「生み出すこと」と「世話をすること」を含めた内容をもつ。EPSI(Erickson's Psychosocial Stage Inventory)は、エリクソンの漸成図式を点数化する方法で、エリクソンの意味での、人間の成熟度の指標である<sup>2)</sup>。他方、最近注目されているものに、SOCがある<sup>3)</sup>。これは、アーロン・アントノフスキーが、ストレス耐性を測定するために考案したもので、やや重点は異なるが、やはり人間の成熟度をみるものとして、採用した。

2003年度の研究では、EPSI、SOCともに対人関係スキル、次世代育成力に密接に関係することが示された<sup>3)</sup>が、2004年度においては、親と子のセットで直接の継承が証明できるかを見ることにした。

最近、この種の社会調査に協力を得ることは、だんだん難しくなっており、まして親子のセットでデータを得ることは、極めて難しい。われわれは都内、および近郊の2大学(心理・社会系学科)の協力でアンケート調査をおこない、大学生、父母、それぞれ300余の回答を得たが、そのうち、3者のそろったものは、111組にとどまった。

学生・父・母それぞれの群別の解析では、前年の報告を裏付けるものとなった。群間の比較は、本文を参照されたい。

学生のEPSIと父母のそれとの間には、個々の項目ではいくつか関連が見られたが、総得点では、男子学生では、父、母のEPSIと有意の相関が見られたのに関わらず、女子学生では、相関が低かった。

学生の希望子ども数は、母親の希望孫数、および父親のEPSI下位尺度の生殖性との相関が見られたが、他方、父親の世代交流合計、家庭環境合計、育児観合計など逆相関の見られた項目もあった。

興味深いのは、父、母、ともに自分は子どもの話に耳を傾け、子どもを尊重して育てたと考えるものが多いのに、子どもの回答では、母がそのように育ててくれたというものに比べ、父がそのように育てたと答えるものが、やや低いことである。母子関係と、父子関係の違いが見られることは興味深い。

以上、親子セットのデータは、少数例にとどまった関係もあり、親と女子学生の相関の低さなど、理解困難な部分もあるが、さらに解明を続けたい。

## V. 結 語

今回の調査では、父母と学生のEPSIの関連性ほか、各群のEPSIすなわち人格の形成には、家庭および家庭外の人との交流が重要であるという結果が得られ、過去のわれわれの調査結果を再認することができた。その上で、親子の関連を見たところ、いくつかの結果と課題が明らかとなった。

父母の育児観は学生のEPSIと関連がある点で、養育性の継承が示唆された。また、子どもへの接し方について見ると、ネガティブな面での祖父母—父母—学生間の継承は少なかった。しかし、子による父母の養育態度の評価は、父母の回答に反する場合もあった。親の回答と学生の評価とのギャップは、世代の違いと人生段階の違いを考慮する必要があると考えられ、更なる分析が必要である。

学生のEPSI・希望子ども数は世代間交流などとの関連があり、次世代育成力が家庭のみならず社会生活の中で継承されることも再確認された。今後の次世代育成支援策において、家庭単位の支援のみならず、個人へのより広い社会的支援が望まれる。

## 謝 辞

調査に協力頂いた学生およびその保護者の皆様に深謝いたします。また本研究にあたり、助言を頂いた佐方哲彦先生、中村敬先生に深謝いたします。

## 文 献

- 1) E.H.エリクソン. ライフサイクル, その完結. みすず書房, 1989; 88-89
- 2) 中西信男・佐方哲彦. EPSI—エリクソン心理社会的段階目録検査—. 上里一郎監修. 心理アセスメントハンドブック第2版, 西村書店, 2001; 365-376.
- 3) 宮原 忍・他. 少子社会における養育力と価値観に関する研究 (I) EPSI (エリクソン心理社会的段階目録検査) とライフスキル. 日本子ども家庭総合研究所紀要, 2004; 第40集: 129-142.
- 4) 宮原 忍・他. 少子社会における個人および社会の養育力に関する母子保健学的研究 (第二報) 次世代育成に関するアンケート調査結果. 日本子ども家庭総合研究所紀要, 2002; 第38集: 151-163.
- 5) 宮原 忍・他. 少子社会における個人および社会の養育力に関する母子保健学的研究 (第三報) 「次世代育成に関するアンケート調査」分析と統括. 日本子ども家庭総合研究所紀要, 2003; 第39集: 151-167.
- 6) アーロン・アントノフスキー, 山崎喜比古・吉井清子監訳, 健康の謎を解く; ストレス対処と健康保持のメカニズム, 2001, 有信堂
- 7) R.ネルソン・ジョーンズ, 相川充訳, 思いやりの人間関係スキル; 一人のできるトレーニング第10版, 誠信書房, 2001.
- 8) 内閣府, 少子化社会白書平成16年版, ぎょうせい, 2004.

次世代育成に関するアンケート（学生父母別集計）

対象111組：学生111名（男性36名、女性75名）、父親111名、母親：111名

表3. 年齢・きょうだい・出生順位

\*\*\* p<0.01, \*\* p<0.05

No.	学生計		父		母		順位和 検定	学一父	学一母	父一母
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差				
1 年齢	19.7	1.4	51.3	4.1	49.1	3.6	***	***	***	***
2 きょうだい人数	2.3	0.6	3.1	1.1	3.1	1.4	***	***	***	
3 出生順位	1.6	0.7	2.3	1.2	2.2	1.5	***	***	***	

表4. 結婚について（学生）・子どもの結婚について（父母）

No.	カテゴリー（カッコ内は父母への設問）	学生計		父		母	
		件数	%	件数	%	件数	%
1	結婚している	0	0.0	—	—	—	—
2	結婚するつもり、または結婚したい（子どもには、いずれ結婚して欲しい。）	95	85.6	107	96.4	98	88.3
3	結婚はしないが、パートナーとなる異性が欲しい。（結婚はしなくてもよいが、パートナーとなる異性を見つけて欲しい）	6	5.4	0	0.0	9	8.1
4	一生、夫または妻・パートナーはいらない。	2	1.8	0	0.0	0	0.0
5	その他	8	7.2	3	2.7	4	3.6
	不明	0	0.0	1	0.9	0	0.0
	全体	111	100.0	111	100.0	111	100.0

表5. 学生が希望する子ども人数と、親が学生に希望する子ども（孫）人数

No.	学生計		父		母		順位和 検定	学一父	学一母	父一母
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差				
1	2.11	0.89	2.32	0.71	2.35	0.54	**		***	
2	5.0		4.0		7.0					
3	0.0		1.0		0.0					
	2		4		6					
	109		107		105					

表6. 世代継承観(重複回答)

No.	学生計		父		母		順位和 検定	学一父	学一母	父一母
	平均	%	平均	%	平均	%				
1	63	56.8	57	51.4	53	47.7				
2	91	82.0	94	84.7	98	88.3				
3	9	8.1	12	10.8	9	8.1				
4	6	5.4	0	0.0	2	1.8	**			
5	20	18.0	32	28.8	17	15.3	**			**
6	83	74.8	84	75.7	89	80.2				
7	86	77.5	77	69.4	93	83.8	**			**
8	78	70.3	75	67.6	79	71.2				
9	19	17.1	3	2.7	4	3.6	***	***	***	
10	10	9.0	8	7.2	4	3.6				
	465	418.9	443	399.1	448	403.6				

表7. 世代間交流合計点

(かなりある4点、少しある3点、あまりない2点、ほとんどない1点として平均値を算出)

No.	学生計		父		母		順位和 検定	学一父	学一母	父一母
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差				
1	2.65	0.89	2.85	1.05	2.83	0.96				
2	2.18	1.08	1.86	0.99	2.40	1.20	***			***
3	3.90	0.33	3.65	0.56	3.75	0.51	***	***		
	8.64	1.76	8.27	1.85	8.87	1.77	*			

表8. これまでに、誰から世話を受けて成長してきたと感じてるか

No.	学生計		父		母		順位和 検定	対比較		
	件数	%	件数	%	件数			学-父	学-母	父-母
1 父	102	91.9	92	82.9	101	91.0				
2 母	109	98.2	106	95.5	109	98.2				
3 祖父	60	54.1	29	26.1	31	27.9	***	***	***	
4 祖母	71	64.0	36	32.4	60	54.1	***	***		***
5 きょうだい	51	45.9	60	54.1	58	52.3				
6 親戚の人	40	36.0	37	33.3	42	37.8				
7 学校の先生	69	62.2	48	43.2	53	47.7	**	**		
8 保育士やベビーシッター	13	11.7	0	0.0	4	3.6	***	***	**	
9 友人	78	70.3	55	49.5	58	52.3	***	***	**	
10 仕事（アルバイト含む）の同僚	28	25.2	49	44.1	48	43.2	***	**	**	
11 先輩	40	36.0	44	39.6	30	27.0				
12 仕事（アルバイト含む）の上司	26	23.4	49	44.1	34	30.6	***	***		
13 その他	6	5.4	3	2.7	3	2.7				
不明	0	0.0	1	0.9	0	0.0				
回答者数合計	111	100.0	111	100.0	111	100.0				
回答数合計	693	624.3	609	548.6	631	568.5				
合計人数平均値	6.24	2.67	5.48	2.63	5.68	2.97				

表9. 「人生について重要なことを教えてくれた」と感じる人人数（はずれ値を30以上として除外）

	学生計		父		母		順位和 検定	学-父	学-母	父-母
	件数	%	平均	標準偏差	平均	標準偏差				
1 平均	5.37	4.06	4.20	3.00	4.17	4.2	***			
2 最大値	15.0		25.0		25.0					
3 最小値	0.0		0.0		0.0					
不明	4		4		5					
全体	107		107		106					

表10. 育った家庭・両親について

(かなり当てはまる4点、少し当てはまる3点、あまり当てはまらない2点、全く当てはまらない1点として平均値を算出)

No.	学生計		父		母		順位和 検定	学-父	学-母	父-母
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差				
1 私の育った家庭は、自由に話しあう、開放的な雰囲気だった。	3.34	0.78	2.95	0.91	2.9	1.07	***	**	***	
2 私の両親は、お互いの考えや個性を尊重していた。	2.89	0.95	2.88	0.95	2.77	1.03				
3 私の両親は仲のよい夫婦だった。	3.20	0.93	3.04	0.96	3.22	0.97				
4 父は、私の話に耳を傾けてくれた。	3.11	0.89	2.86	1.07	2.97	1.03				
5 私は、父に尊重されて育った。	3.04	0.91	2.96	0.98	3.06	0.98				
6 母は、私の話に耳を傾けてくれた。	3.56	0.72	3.34	0.80	3.40	0.85				
7 私は、母に尊重されて育った。	3.40	0.70	3.28	0.77	3.30	0.89				
1-7合計点	22.47	4.27	21.32	5.11	21.57	5.74				

表11. EPSI, SOC, 対人スキル

No.	学生計		父		母		順位和 検定	学-父	学-母	父-母
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差				
1 信頼性	14.6	4.2	16.0	3.3	16.6	3.5	***	**	***	
2 自律性	15.7	4.7	18.6	3.6	17.9	3.7	***	***	***	
3 自主性	15.2	4.1	18.4	3.9	17.6	3.4	***	***	***	
4 勤勉性	15.4	4.8	19.2	4.1	18.2	4.0	***	***	***	
5 同一性	17.6	4.7	19.6	4.2	18.8	4.1	**	***		
6 親密性	18.0	4.5	16.8	4.1	17.1	3.6	*			
7 生殖性	14.3	4.2	17.1	3.8	15.3	3.7	***	***		***
8 統合性	16.9	4.6	18.3	4.0	17.5	4.0	*			
EPSI合計	127.7	26.4	143.9	24.6	138.9	22.8	***	***	***	
SOC合計	51.4	11.1	61.7	10.4	60.2	11.9	***	***	***	
対人スキル合計	19.0	4.3	18.6	3.9	19.6	4.3				

宮原他：親子間の継承に関するアンケート調査結果

表13.学生・父・母のEPSIとそれぞれの設問との相関

仮説相関値= 0

	学生EPSI	父親EPSI	母親EPSI
1.年齢	0.184 *	0.038	0.048
2.性別	0.254 ***	--	--
3.同居人	-0.108	--	--
4.きょうだい人数	-0.115	-0.088	0.079
5.出生順位	-0.049	-0.001	0.050
6.世代間交流合計	0.424 ***	0.183 *	0.347 ***
7.希望子ども数	0.111	--	--
8.希望する孫数	--	0.265 ***	0.102
9.世代継承観合計	0.106	0.203 **	0.204 **
10.世話になった人合計	0.120	0.039	0.065
11.人生教えてくれた人数	0.248 *	0.037	0.085
12.家庭環境	0.338 ***	0.048	0.309 ***
13.育児観1~9合計	--	0.059	0.489 ***
14.SOC	0.737 ***	0.660 ***	0.735 ***
15.対人スキル	0.639 ***	0.595 ***	0.530 ***

表14.学生EPSIと父母への設問との相関

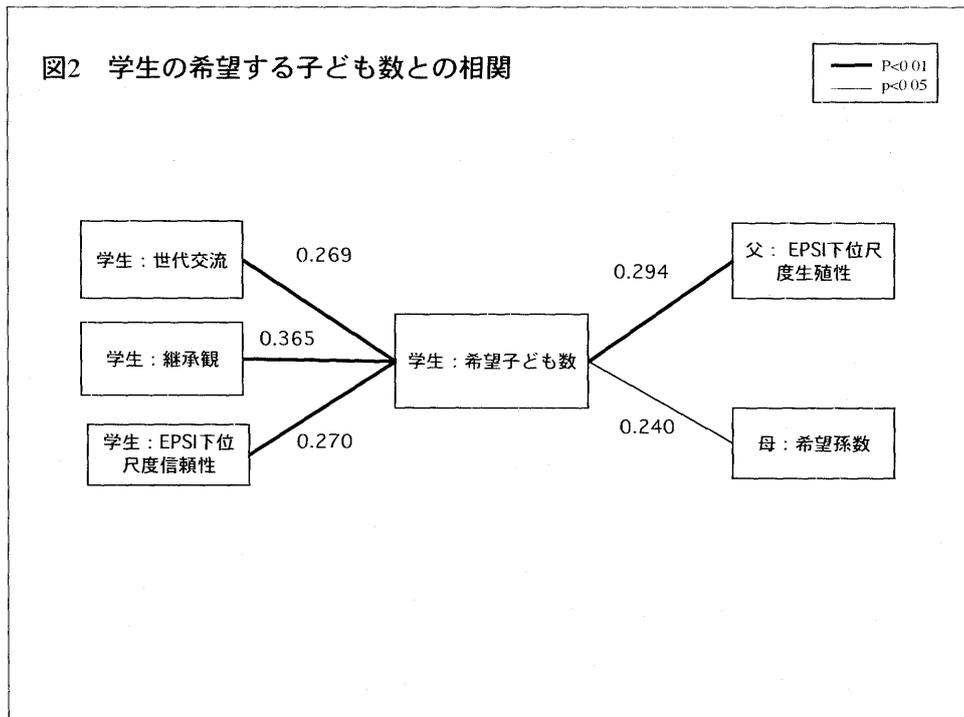
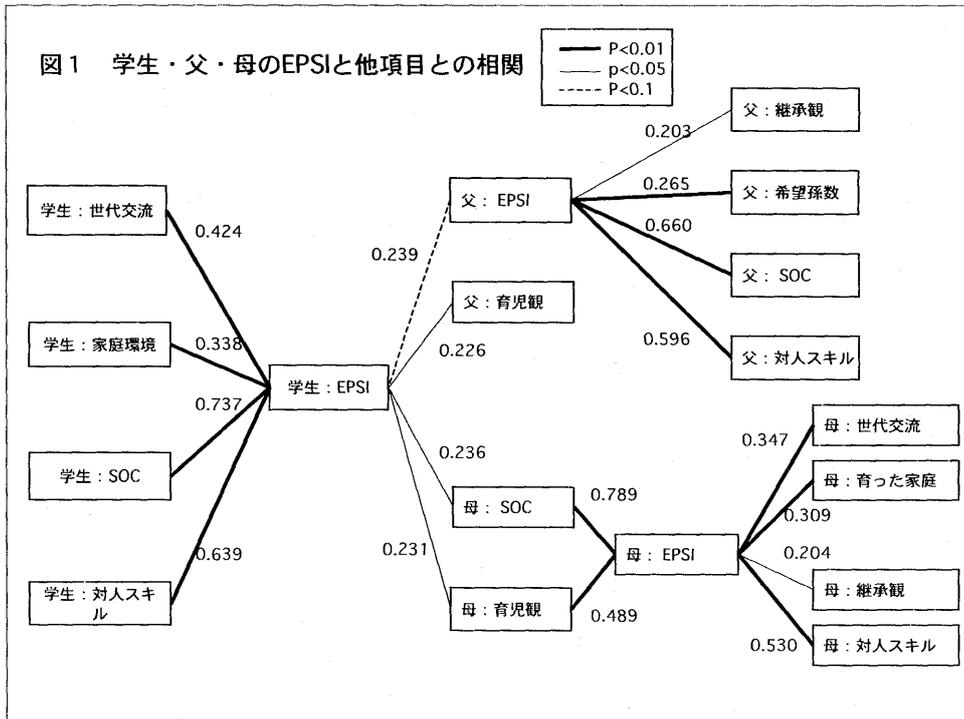
仮説相関値= 0

	学生EPSIと 父親への設問	学生EPSIと 母親への設問
1.年齢	0.089	0.037
2.きょうだい人数	-0.068	-0.285 ***
3.出生順位	-0.032	-0.285 ***
4.世代間交流合計	0.087	0.075
5.希望する孫の人数	0.155	-0.188 *
6.世代継承観合計	0.040	0.031
7.世話になった人合計	-0.069	0.11
8.人生教えてくれた人数	-0.11	0.034
9.育った家庭環境	0.089	0.014
10.育児観	0.239 **	0.231 **
11.EPSI	0.226 *	0.178
12.SOC	0.112	0.236 **

表15.学生希望子ども数と学生・父親・母親の設問との相関

仮説相関値= 0

	学生希望子ども数 と学生への設問	学生希望子ども数 と父親への設問	学生希望子ども数 と母親への設問
1.年齢(父母)	--	0.016	0.201 **
2.同居人	-0.029	--	--
3.きょうだい人数	0.122	0.075	0.040
4.出生順位	0.143	0.074	0.039
5.世代間交流合計	0.269 ***	-0.211 **	0.061
6.希望する孫の人数	--	0.097	0.240 **
7.世代継承観合計	0.365 ***	0.074	0.013
8.世話になった人合計	0.124	-0.147	-0.154
9.人生教えてくれた人数	0.237 *	-0.024	0.015
10.家庭環境合計	0.037	-0.231 **	0.003
11.育児観1~9合計	--	-0.199 **	0.017
EPSI	0.111	0.171 *	0.115
EPSI下位尺度：信頼性	0.270 ***	0.004	0.012
EPSI下位尺度：自律性	0.098	0.028	0.064
EPSI下位尺度：自主性	-0.030	0.188 *	0.092
EPSI下位尺度：勤勉性	0.020	0.103	0.065
EPSI下位尺度：同一性	-0.031	0.150	0.103
EPSI下位尺度：親密性	0.082	0.171 *	0.108
EPSI下位尺度：生殖性	0.177 *	0.294 ***	0.126
EPSI下位尺度：統合性	0.078	0.121	0.121
SOC	0.101	0.039	0.041
対人スキル	0.022	0.121	0.137



<親の子への接し方の継承>

肯定とは「少し当てはまる」+「よく当てはまる」

否定とは「あまり当てはまらない」+「全く当てはまらない」

表16. 父母が親から受けた接し方と自分の子への接し方（父母の回答より）

		祖父から父への傾聴								検定
		肯定	縦%	全体%	否定	縦%	全体%	計	%	
父自己評価（私は子どもの話に耳を傾けてきた）	肯定	66	91.7	62.3	25	73.5	23.6	91	85.8	**
	否定	6	8.3	5.7	9	26.5	8.5	15	14.2	
	計	72	100.0	67.9	34	100.0	32.1	106	100.0	

		祖母から母への傾聴								検定
		肯定	縦%	全体%	否定	縦%	全体%	計	%	
母自己評価（私は子どもの話に耳を傾けてきた）	肯定	74	94.9	71.2	24	92.3	23.1	98	94.2	
	否定	4	5.1	3.8	2	7.7	1.9	6	5.8	
	計	78	100.0	75.0	26	100.0	25.0	104	100.0	

		祖父から父への尊重								検定
		肯定	縦%	全体%	否定	縦%	全体%	計	%	
父自己評価（私は子どもを尊重して育てて来た）	肯定	78	94.0	73.6	21	91.3	19.8	99	93.4	
	否定	5	6.0	4.7	2	8.7	1.9	7	6.6	
	計	83	100.0	78.3	23	100.0	21.7	106	100.0	

		祖母から母への尊重								検定
		肯定	縦%	全体%	否定	縦%	全体%	計	%	
母自己評価（私は子どもを尊重して育てて来た）	肯定	78	90.7	73.6	17	85.0	16.0	95	89.6	
	否定	8	9.3	7.5	3	15.0	2.8	11	10.4	
	計	86	100.0	81.1	20	100.0	18.9	106	100.0	

表17. 学生からみた親接し方と親の自己評価（学生と父母の回答）

		父自己評価（私は子どもの話に耳を傾けてきた）								検定
		肯定	縦%	全体%	否定	縦%	全体%	計	%	
学生による父の評価（父は、私の話に耳を傾けてくれた）	肯定	71	75.5	64.5	14	87.5	12.7	85	77.3	
	否定	23	24.5	20.9	2	12.5	1.8	25	22.7	
	計	94	100.0	85.5	16	100.0	14.5	110	100.0	

		母自己評価（私は子どもの話に耳を傾けてきた）								検定
		肯定	縦%	全体%	否定	縦%	全体%	計	%	
学生による母の評価（母は、私の話に耳を傾けてくれた）	肯定	94	91.3	86.2	5	83.3	4.6	99	90.8	
	否定	9	8.7	8.3	1	16.7	0.9	10	9.2	
	計	103	100.0	94.5	6	100.0	5.5	109	100.0	

		父自己評価（私は子どもを尊重して育てて来た）								検定
		肯定	縦%	全体%	否定	縦%	全体%	計	%	
学生による父の評価（私は、父に尊重されて育った）	肯定	73	72.3	67.0	5	62.5	4.6	78	71.6	
	否定	28	27.7	25.7	3	37.5	2.8	31	28.4	
	計	101	100.0	92.7	8	100.0	7.3	109	100.0	

		母自己評価（私は子どもを尊重して育てて来た）								検定
		肯定	縦%	全体%	否定	縦%	全体%	計	%	
学生による母の評価（私は、母に尊重されて育った）	肯定	88	88.9	80.0	10	90.9	9.1	98	89.1	
	否定	11	11.1	10.0	1	9.1	0.9	12	10.9	
	計	99	100.0	90.0	11	100.0	10.0	110	100.0	

図3 親の接し方：傾聴・尊重—保護者の回答(父+母)222名(%)

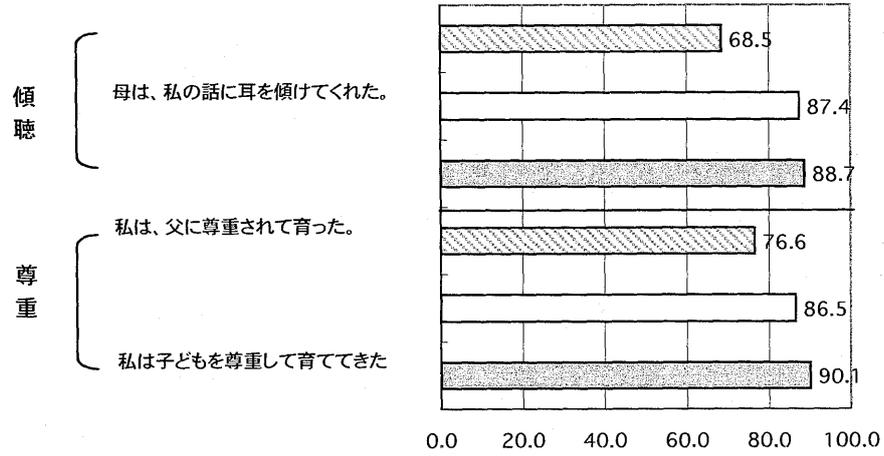


図4 父の接し方評価：傾聴・尊重—父と学生各111名(%)

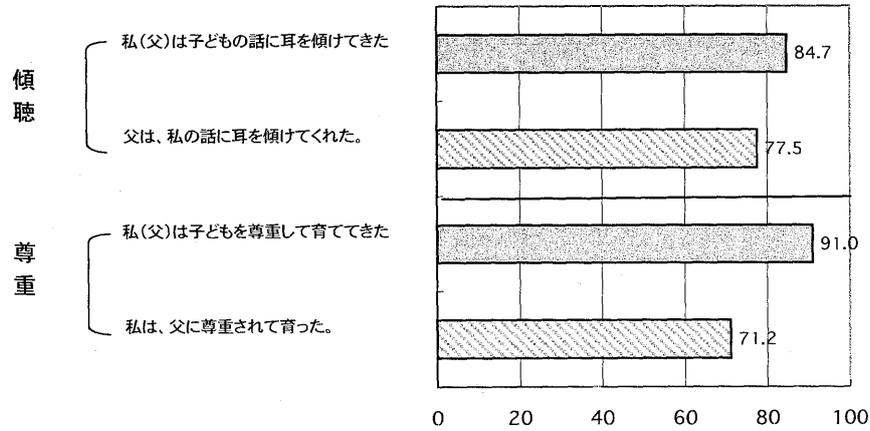
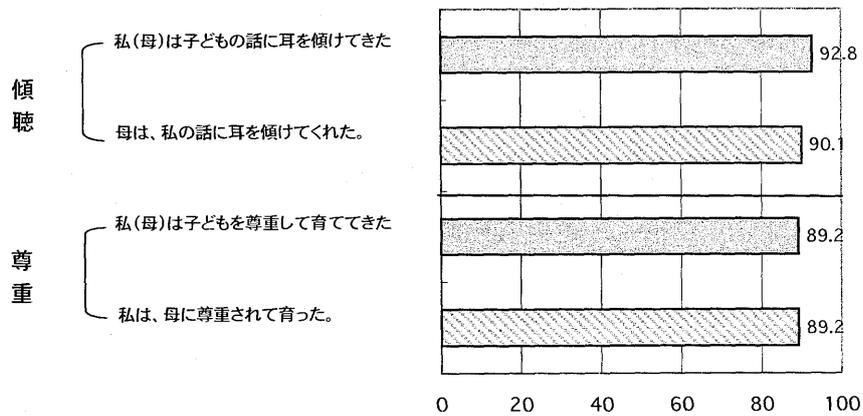


図5 母の接し方評価：傾聴・尊重—母と学生各111名(%)



資料1. EPSI (エリクソン心理社会段階目録検査) 項目

<p><b>信頼性</b></p> <p>1.*私に、もっと自分をコントロールする力があればよいと思う</p> <p>2.*良いことは決して長続きしないと、私は思う</p> <p>3. 私は、世間の人たちを信頼している</p> <p>4. 周りの人々は、私のことをよく理解してくれている</p> <p>5.*私には、何事も最悪の事態になるような気がしてくる</p> <p>6. 世の中は、いつも自分にとってよい方向に向かっている</p> <p>7.*周りの人たちは、私を理解してくれない</p>	<p><b>同一性</b></p> <p>29. 私は、自分が何になりたいのかをはっきりと考えている</p> <p>30.*私は、自分が混乱しているように感じている</p> <p>31. 私は、自分がどんな人間であるのかをよく知っている</p> <p>32.*私は、自分の人生をどのように生きたいかを自分で決められない</p> <p>33.*私は、自分のしていることを本当はわかっていない</p> <p>34. 私は、自分が好きだし、自分に誇りをもっている</p> <p>35.*私には、充実感がない</p>
<p><b>自律性</b></p> <p>8.*私は、何事にも優柔不断である</p> <p>9.*私は、決断する力が弱い</p> <p>10.*私は、自分という存在を恥ずかしく思っている</p> <p>11. 私は、自分で選んだり決めたりするのが好きである</p> <p>12.*私は、自分の判断に自信がない</p> <p>13.*私は、この世の中でうまくやっつていこうなどとは決して思わない</p> <p>14. 私は、物事をありのままに受け入れることができる</p>	<p><b>親密性</b></p> <p>36.*誰かに個人的な話をされると、私は当惑してしまう</p> <p>37. 私は、特定の人と深いつきあいができる</p> <p>38. 私は、あたたかく親切な人間である</p> <p>39.*私は、もともと1人ぼっちである</p> <p>40. 私は、他の人たちと親密な関係を持っている</p> <p>41.*私は、他の人よりも目立つのを好まない</p> <p>42.*私は、他の人たちとなかなか親しくなれない</p>
<p><b>自主性</b></p> <p>15.*私には、みんなが持っている能力が欠けているようである</p> <p>16.*私は、誰か他の人がアイデアをだしてくれることをあてにしている</p> <p>17. 私は、多くのことをこなせる精力的な人間である</p> <p>18.*たとえ本当のことであっても、私は否定してしまうかもしれない</p> <p>19.*私は、リーダーというよりも、むしろ後に従っていくほうの人間である</p> <p>20.*私は、いろんなことに対して罪悪感を持っている</p> <p>21. 私は、してはいけないことに対して、自分でコントロールできる</p>	<p><b>生殖性</b></p> <p>43. 私は、後輩や部下のめんどろをよく見る</p> <p>44. 私は、将来に残すことのできる業績をあげつつある</p> <p>45. 私は、よい親である(親になる)自信がある</p> <p>46.*私は、後輩や部下を指導するのが苦手である</p> <p>47.*私は、自分を甘やかすところがある</p> <p>48.*私は、親であること(親になること)が不安である</p> <p>49. 私は、未来を担う子どもたちを育てていきたいと思う</p>
<p><b>勤勉性</b></p> <p>22. 私は、いっしょうけんめいに仕事や勉強をする</p> <p>23. 私は、自分が役に立つ人間であると思う</p> <p>24. 私は、目的を達成しようとがんばっている</p> <p>25. 私は、自分の仕事をうまくこなすことができる</p> <p>26.*私は、物事を完成させるのが苦手である</p> <p>27.*私は、のらりくらりしながら多くの時間をむだにしている</p> <p>28.*私は、頭を使ったり、技術のいる事柄はあまり得意ではない</p>	<p><b>統合性</b></p> <p>50.*私は、自分が死ぬことを考えると不安である</p> <p>51. 私のこれまでの人生は、かけがえのないものだと思う</p> <p>52.*私は、生きがいをなくしてしまっている</p> <p>53. 私は、悔いのない人生を歩んでいる</p> <p>54. 私は、自分の死というものを受け入れることができる</p> <p>55.*私には、もっと別の生き方があるのではないかと思う</p> <p>56.*私の人生は、失敗の連続のように思う</p>

<EPSI採点法> (\*印の逆転項目)

全くあてはまらない	0点	(4点)
ほとんどあてはまらない	1点	(3点)
あまりあてはまらない	2点	(2点)
かなりあてはまる	3点	(1点)
とてもよくあてはまる	4点	(0点)

出典：中西信男・佐方哲彦. EPSI—エリクソン心理社会的段階目録検査—. 上里一郎監修. 心理アセスメントハンドブック第2版, 西村書店, 2001; 365-376

資料2. SOC(首尾一貫感覚)項目 (縮約版)

(\*は逆転項目)

1.*あなたは、自分のまわりで起きていることがどうでもいい、という気持ちになることがありますか まったくない 1 2 3 4 5 6 7とてもよくある
2.*あなたは、これまでによく知っていると思っていた人の、思わぬ行動に驚かされたことがありますか まったくなかった 1 2 3 4 5 6 7いつもそうだった
3.*あなたは、あてにしていた人に、がっかりさせられたことがありますか まったくなかった 1 2 3 4 5 6 7いつもそうだった
4.今まで、あなたの人生には、明確な目標や目的が まったくなかった 1 2 3 4 5 6 7あった
5.あなたは、不当な扱いを受けているという気持ちになることがありますか よくある 1 2 3 4 5 6 7まったくない
6.あなたは、不慣れな状況にいると感じ、どうすればよいのかわからない、と感じることがありますか とてもよくある 1 2 3 4 5 6 7まったくない
7.*あなたが毎日していることは 喜びと満足を与えてくれる 1 2 3 4 5 6 7 つらく退屈である
8.あなたは、気持ちや考えが非常に混乱することがありますか とてもよくある 1 2 3 4 5 6 7まったくない
9.あなたは、本当なら感じたくないような感情をいだいてしまうことがありますか とてもよくある 1 2 3 4 5 6 7まったくない
10.*どんなに強い人でさえ、ときには「自分はダメな人間だ」と感じることもあるものです。あなたは、これまで「自分はダメな人間だ」と感じたことがありますか。 まったくなかった 1 2 3 4 5 6 7よくあった
11.何か起きたとき、ふつう、あなたは、 そのことを過大に評価したり、 1 2 3 4 5 6 7適切な見方をしてきた 過小に評価してきた
12.あなたは、日々の生活で行っていることにほとんど意味がない、と感じることがありますか よくある 1 2 3 4 5 6 7まったくない
13.あなたは、自制心を保つ自信がなくなることがありますか よくある 1 2 3 4 5 6 7まったくない

出典：アーロン・アントノフスキー、山崎喜比古・吉井清子監訳、健康の謎を解く；ストレス対処と健康保持のメカニズム、

2001, 有信堂

資料3. 対人スキル項目

	1.よく当てはまる	2.かなりあてはまる	3.あまりあてはまらない	4.全くあてはまらない
1. 自分の感情を適切に表現することができる	1	2	3	4
2. 自分の意見を相手に伝えることができる	1	2	3	4
3. 相手の言うことに耳を傾けることができる	1	2	3	4
4. 相手の言葉や感情を理解できる	1	2	3	4
5. 自分の感情をコントロールできる	1	2	3	4
6. 自分を否定的に見ないで、長所を見つけようとする	1	2	3	4
7. 相手と一諸に解決策を見出そうとする	1	2	3	4
8. 相手を理解するスキルを上達させようとする	1	2	3	4
9. あまり好きでもない人と一緒に仕事ができる	1	2	3	4
10. ライフスキル (上にあげたような社会においてよりよく生きるための基本的能力) を学習したい	1	2	3	4

参考文献：R.ネルソン・ジョーンズ、相川充訳、思いやりの人間関係スキル；一人で行えるトレーニング第10版、誠信書房、2001。